



CONTENTS

- ◆後援会会長あいさつ・・・・・・・・・・ 1
- ◆教育学部長あいさつ・・・・・・・・・・ 2
- ◆教職大学院という学びの選択肢・・ 3
- ◆学生の年間スケジュール紹介・・ 4
- ◆卒業生の声・・・・・・・・・・・・・・ 8
- ◆後援会活動の概要・・・・・・・・・・・・ 10
- ◆後援会役員名簿・・・・・・・・・・・・ 11
- ◆学生支援事業のお知らせ・・・・・・ 12



未来へ

後援会会長 内藤 正和

島根大学教育学部後援会会員の皆様におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本後援会活動に対し、ご理解とご協力を賜り心より厚く御礼申し上げます。

今年度、島根大学教育学部後援会の会長を務めさせていただいております内藤正和と申します。皆様方のご協力を賜りながら、責務を果たして参りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、本後援会は、島根大学教育学部の発展充実に寄与し、在学生の教育に関し、学部と協力することを目的として、昭和27年に設立され、72年の長い歴史と伝統を有しています。

その間、皆様からご支援いただいた貴重な会費等をもとに、学生教育充実のため、教育学部の発展のため、教育研究活動や就職活動のほか、地域交流活動や国際交流活動などに対する支援を行っているほか、後援会員の皆様と学部との連携を図るために後援会会報を発行するなどの事業を行っています。

自然の中で季節の移ろいを肌で感じ、芸術・歴史・文化に溢れるこの島根県は、学生の皆さん

が勉学に励み、豊かな感性を磨くにはまたとない環境です。新入生の皆さんにおかれましては、不安、期待、目標、緊張などが入り混じった入学式から早7ヵ月余りが過ぎ、大学生活にも慣れてきた頃かと思います。

大学生活は楽しいことばかりではなく、時には困難なことにぶつかり、悩むことが多いかもしれませんが、共に学ぶ仲間との絆も深まる人生の輝く時期でもあります。4年間の大学生活は、「光陰矢の如し」のように過ぎ去ります。多くを学び、多くの経験を積み、多くの仲間を作り、自分の将来目標や進路を見極め、人生100年時代、少子高齢化など、様々な難題が待ち受けている社会で、活躍できる知識を身に付けていただきたいと思います。

結びに、学生の皆さんが、『この島根大学に入学して良かった』『島根大学の学生で本当に良かった』と、この島根大学を卒業したことに誇りを持って社会に出ていけるよう、教育学部後援会の各事業を展開して行きたいと考えていますので、本年度も引き続きご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。



次の時代の教員を育てる 島根大学教育学部

教育学部長 川 路 澄 人

令和6年度入学生の保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。

実は今年の入学式後のオリエンテーションにおいて、新入生に対して「あなたにとって何がおめでたいのですか？」と問いかけました。私たち大人はこうした場面で当たり前に「おめでとう」と言いますが、その意味をあまり意識していません。おそらく言われる側の学生も「おめでとう」→「ありがとう」を無意識に繰り返しています。何が「おめでたい」のでしょうか？試験に合格したから、大学進学という夢のために努力が実ったから「おめでとう」なのでしょう。夢のない話ではありますが、入学式後には長いオリエンテーション、数日後には高校時代とあまり変わらない朝8:30から夕方18:30までの講義がずらっと並んでいます。現実には厳しく、「おめでたい」ことなどほとんどありません。先日は高校生に向けて「夏休みは必要ですか？」と問いかけました。冷房が効いた教室で快適に授業を受けることができるのであれば、自宅でエアコンを使用するよりも、SDGsの時代には適切であり、また夏休みをなくす事により、普段の学校は午前中で終わり、午後は各自で自分の興味関心に即した探究的な学びをする方が明らかに効率的ではないでしょうか。

かなり無理な、そして飛躍したことを大学生や高校生に問いかけている意味は、これからの時代は従来「当たり前」と考えていたものを問い直すことが重要になるからです。私は次の時代の教員にとって自分が受けてきた教育を根底から考え直す姿勢が大切だと考えます。10年後、20年後の学校教育、そしてそれを取り囲む社会は今の姿と大きく変わってい

ることでしょう。そうした時代に活躍する教員を養成するために私たち島根大学教育学部では令和6年度より新たな「ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)」を作成しました。人材育成目標として「学び続ける教師」「教育実践を省察する教師」「社会における未来を創造する教師」を設定し、その学修成果として以下の9つを掲げました。

① 学校理解 ② 探究力 ③ 教師像・倫理 ④ 社会参画 ⑤ リーダーシップ・協働性 ⑥ 教科知識・技能 ⑦ 授業実践 ⑧ 学習者理解・支援 ⑨ ICT・データ利活用

特に「社会における未来を創造する教師」には、既存概念にとらわれず、新しい学びを自ら作り出せる能力が必要だと考えます。

とは言え、現在の教育の世界は課題が山積しています。まずは他者と豊かに関わる機会を保証する1000時間体験学修、子どもの学びを俯瞰的に捉えることのできる小・中(高)免許併有型の主副専攻制といった島根大学教育学部の特色あるカリキュラムでその基礎を育てていきます。主副専攻以外での免許取得を目指す幼稚園や特別支援学校、技術科の免許プログラムや、個人の興味・関心に沿って学ぶ心理学と社会教育士の特別プログラムなど、学生の学びの広がりを支えるプログラムも揃っています。

このように次の時代の教員を育てる島根大学教育学部では、全教職員が一丸となって学生教育に従事していきます。後援会の皆様方には、本学部における教育活動の趣旨をご理解いただくとともに、益々のご支援・ご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

教職大学院という学びの選択肢

島根大学教職大学院では、地域の学校教育現場が有する教育課題に対応することができる高い総合力を有した教員の育成を目指しています。

大学での最新の教育・学習理論や研究手法の学びと、協力校(実習校)での実践を往還しながら、2年間を通して「地域の教育課題に関する研究」を進めます。また、学部新卒院生と現職派遣院生が共に学ぶ豊かな学習環境を整えています。

「学び続ける教師」「スクールリーダー」に求められる「学校創造力」「授業デザイン力」「子ども支援力」を育成するカリキュラムを展開しています。共通科目ではこれら3領域を広く学び、選択科目では研究課題に応じて1つの領域を深く学ぶことができます。

現職の先生方、自身の教育について立ち止まって見つめ直しませんか。学生のみならず、学部で学んだことを更に深めていきませんか。教職大学院でお待ちしております。

院生(教員採用試験合格者)の声

島根県教員採用試験で中学校に合格しました。学部4年次の受験では不合格となり、それを機に自らの学び不足さを痛感して大学院への進学を決めました。学部4年間では教科の専門を学んできましたが、学校教育全般に関する学びを十分にできなかったという思いがありました。

講師として学校現場にいれば、日々子どもたちと共に貴重な経験を積めるであろうという思いもありましたが、大学院で島根県が抱える現代的な教育課題に対する授業内容や方法、学校経営、教育相談、生徒指導などについて様々な文献をもとに熟考し、教育を広い視野で捉える時間をつくりたいと考えました。

講義は現職教員の大学院生の方々と共に、基本的にディスカッション形式で行います。初めは話し合いに上手く参加できず、もどかしい思いをしました。しかし、学校教育に関わる様々なテーマについて自分なりに考えを語ることや、他の学生の多様な経験知に基づいた意見を聞くことは、教師を志す上で非常に貴重な経験であるし、同時に教員採用試験対策につながっていたように思います。

実習は、松江市内の高等学校で様々な教科の授業観察や授業実践、学級経営への関わり等の貴重な体験をさせていただいています。このように、教職大学院では理論と実践の往還を通して、充実した学びが保障されています。学校現場にでる前に、まだ学び足りないという思いのある方は、ぜひ進学を検討してみてください。

多忙な教員生活の中で、勉強しながら採用試験合格を目指すことに自信がなく不安を抱いていた私は、講師として働か迷いながらも、現場よりも勉強時間が確保できなおかつ教職に対して学びを深めることのできる教職大学院へ進学することを選択しました。

大学院では、日々の授業が全て教員採用試験の対策に直結していると言っても過言ではありません。最新の教育現場の理論等を学びつつ、協力校で実践を行うことが出来ます。教職大学院の一番の強みは、現職教員院生の先生方と一緒に勉強できることだと思います。理論的な知識だけではなく、先生方から実際の現場の状況を聞き、イメージしながら学べることは、「活きる学び」に繋がっていると実感しています。

実際に、私が採用試験の面接で聞かれた内容は教職大学院の授業で学んだことや考えたことばかりでした。また、教員採用試験の対策に関しては、現職の先生方に模擬授業を手伝っていただいたり、教育委員会や管理職で働いておられた先生方に面接練習をしていただいたり、手厚くサポートしていただきました。そのおかげで、本年度、教員採用試験において合格することができました。

教職大学院には、学生を応援してくれる環境が整っていると思います。教職大学院に進学することは一見すると遠回りに思えるかもしれませんが、しかし、大学院に進学して良かったと自信を持って言えます。それはこの半年間で得てきた学びが自分のものになり、早く現場で活用したいという思いが膨らんでいるからです。悩んだ末の大学院進学でしたが、勇気をもって進学を決めて良かったと思っています。

Q & A

◆ 就学途中で教員採用試験に合格した場合、採用はどうなりますか？

入学前や1年生のときに合格した場合、たとえば、島根県や鳥取県等では、大学院修了まで合格を維持したまま、採用を待つ頂ける制度があります。

◆ 教員採用試験の勉強をする時間はありますか？

1年目の大学での講義は12〜13コマです。それ以外の時間に教員採用試験の対策をして、1年目に合格する大学院生もいます。2年目は、学校での実習と課題研究以外は教員採用試験の対策に取り組んでいます。

◆ 実習校ではどんなことをするのですか？

研究テーマに関するデータ収集(観察や調査)と授業実践が中心です。その他、担当学級の学級経営の補助や、学校行事の運営補助、中学校では部活動指導の補助など、授業以外にも学校の様々な活動を経験します。

◆ 学校での教科に関する授業がありますか？

教職大学院では、教科指導力の向上のため、教科の内容を深く学び、教材づくりや授業のデザインを考える授業があります。また、研究テーマによっては各教科の教科教育の大学教員が指導教員の一人になりますので、ゼミ形式で教科の専門性を伸ばすことも可能です。

1 年

学校教育実習Ⅱ

主専攻ごとに教育実習を行います。附属学校園で行う教科指導を中心とした観察実習です。主専攻に対応する校種・教科の授業参観・授業協議を行い、ポートフォリオを作成するとともに模擬授業演習等を行うことによって授業設計の基礎を培います。(通年・20時間)



充実期セミナー

2年生を対象に開催される基礎体験セミナーです。各自の取組の傾向をもとにしたグループでの活動を通して成果や課題を明らかにすることを目的としています。また、学内資格を取得している先輩からのアドバイスを受けることもできます。



教師力パワーアップセミナー

教師力パワーアップセミナーは教員採用試験への対策や教職をより深く理解するための取組です。2年生から参加できます。教員採用試験の合格者や現任教員である先輩との交流会もあります。



◎学部(大学)行事等 ★Web入力(必須)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◎在学生ガイダンス ◎健康診断 ◎介護等体験事前指導 ★教職志向性調査					◎充実期セミナー	◎学修ポートフォリオ(LP)作成説明 ★LP入力 ★教職志向性調査	★LPまとめ ◎C系・G系	◎教員採用試験合格者体験報告会		◎基礎体験交流会 ◎教師力パワーアップセミナー	
◎学校教育実習Ⅱ											
◎介護等体験											
					◎在学生ガイダンス					◎LP提出締切	

学修ポートフォリオ(LP)

大学での学びの状況は、履修単位の成績評価だけで計ることのできない広がりをもっています。「学修ポートフォリオ(LP)」は、そのような学生一人ひとりの学びの成果と軌跡を記録する「カルテ」です。「学修ポートフォリオ」の作成は、4年間で3回、大学生活の節目の場面でを行います。その目的は、教師に必要な能力の総体である「10の教師力」の修得状況を、複数の評価視点(自己評価、他者評価、客観的評価)からレーダーチャートや言語による可視化をすることにより、学びの状況とこれからの目標を確認することにあります。数値だけでなく、ポートフォリオを仲介とした指導教員と学生のコミュニケーションを大切にしています。

C系・G系

学校教育体験領域における実習で、1000時間体験学修の体験時間としてカウントされます。2年生の後期と3年生の前期に開講され、半期毎にどちらかを受講することになります。C系は個人(子ども・保護者)に対する支援(Counseling)を想定した実習で、相談場面のロールプレイを通して、よりよい聴き方や相手の気持ちに添う関わり方について学びます。G系は学級集団形成など集団における支援(Group approach)を想定した実習で、自分や相手の特性に関する気づきを促すグループ活動を通じて、よりよい学級集団づくりの技能を学びます。

(2年後期・3年前期 各20時間)



介護等体験

特別支援学校及び社会福祉施設(老人ホーム等)で、あわせて7日間の体験を行います。

〈内訳〉

- 鳥根県又は鳥根県内の特別支援学校での体験(2日間)
(例)授業の補助、学校行事等校務全般にわたる補助の体験等
- 鳥根県内の社会福祉施設(老人ホーム等)での体験(5日間)
(例)介護・介助、障がい者等の話し相手や散歩の付添い等の交流の体験、掃除や洗濯等受入れ施設の職員に必要なとされる業務補助の体験等

Check

- ◆3年生で行う実習Ⅲを履修するためには、2年生終了時まで、に別途定められた履修資格を満たしている必要があります。

学校教育実践研究Ⅱ

学校教育実習Ⅲ・Ⅳと連動して開講されるコア授業科目です。主専攻に対応する校種・教科の授業実践に焦点化し、授業分析や教材研究、学習者理解を基本とした教材制作のトレーニング、学習指導案作成と模擬授業を行います。また事後指導では、自らの実習を深化・発展させるための振り返りを行います。(通年・40時間・2単位)



学校教育実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

●学校教育実習Ⅲ(前期・40時間・1単位)

主専攻に対応した教育実習です。附属学校の授業観察を通して、授業を「教師と学習者のコミュニケーションの総体」として把握し、学校教育実習Ⅳに必要な授業実践力の基礎を培います。

●学校教育実習Ⅳ(後期・120時間・4単位)

主専攻に対応し、授業実践に主軸を置いた教育実習です。教科指導をはじめ、学習集団の形成や学級経営に係る実践的トレーニングを行い、教職へのより深い理解と基礎的な実践力の育成を図ります。

●学校教育実習Ⅴ(後期・40時間・1単位)

副専攻の校種・教科に対応した観察実習主体の教育実習です。学齢期にある子どもの「成長」、「発達」をより長いスパンから捉え、子ども理解を深めます。



◎学部(大学)行事等 ★Web入力(必須)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実習	◎学校教育実践研究Ⅱ											
		◎学校教育実習Ⅲ				◎学校教育実習Ⅳ						
講義・その他	◎在学生ガイダンス											
	◎健康診断											
	★教職志向性調査											
	◎C系・G系											
			◎実習セメスター説明会					◎学校教育実習Ⅴ				
								◎実習セメスター				
					◎在学生ガイダンス							
									◎学修ポートフォリオ(LP)作成説明会			
									★LP入力			
									◎応用期セミナー	★LPまとめ		
									◎教員採用試験スタートガイダンス			
									★教職志向性調査			
										◎教師力パワーアップセミナー		

実習セメスター学校教育体験活動

3年生の後期は実習セメスターとなっています。この期間に教育実習Ⅳ・Ⅴを行います。実習を行わない期間を活用して学校教育体験活動を行います。教育実習と、公立小中学校を中心とした教育体験を通して、学外教育体験を往還させることによって、より幅広い教師力を身につけることが期待できます。



応用期セミナー

3年生対象の基礎体験セミナーです。実習セメスターの活動及び教育実習での活動を振り返り、今後の大学生活を展望するとともに、進路決定に向けての自己啓発を促す時間とします。学外体験活動や教育実習での学びの発表会や進路希望別グループでの協議を行います。



教師力パワーアップセミナー

教師力パワーアップセミナーは教員採用試験への対策や教職をより深く理解するための取り組みです。教員採用試験の面接対策や卒業後の教員生活ですぐに必要なスキルを研修します。教員採用試験合格者や現役教員である先輩との交流会もあり、不安や悩みを解決できるセミナーです。



学校教育実習Ⅵ 幼稚園教育実習 特別支援教育実習

それぞれの教職志向に対応し、主体的に選択する学校教育実習科目です。取得したい免許状に基づき、学校教育実習Ⅵ、幼稚園教育実習、特別支援教育実習のいずれかを選択します。

学校教育実習Ⅵ(前期・40時間・1単位)[選択]
幼稚園教育実習(前期・80時間・2単位)[選択]
特別支援教育実習(前期・後期・80時間・2単位)[選択]

発展期セミナー

4年生対象の基礎体験セミナーです。4年間の大学生活で、自ら選択して取り組んできた基礎体験活動について振り返ります。基礎体験活動の成果や、自己の在り方への影響度などを協議することを通して、自分自身の学修の総括を行います。



学生就職・進路情報

卒業年次生は教員採用試験、就職活動の状況を就職支援室に報告します。4月、9月、3月に入力期間が設けられており、その時点での進捗状況を報告することになっています。これらの情報は、下級生が今後、教員採用試験や就職活動をする上で、有益な情報となります。また、就職支援室が運営する「未来教師塾」に参加することで、経験豊富な講師陣から、教員就職に向けた様々なアドバイスを受けることができます。

◎学部(大学)行事等 ★Web入力(必須) ■教員採用試験関連

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卒業研究	◎題目提出締切り(指導教員に提出)							◎口頭試問 ◎卒業演奏試験(音) ◎卒業論文提出 ◎卒業作品提出				
教員採用試験		■願書提出 ◎教師力パワーアップセミナー ◎願書添削セミナー ◎マナーアップセミナー		■一次試験 ◎合格発表		■二次試験 ◎講師登録 ◎合格発表				■各教育委員会による 合格者研修		■勤務校決定 ◎講師採用の 連絡
その他	◎在学生ガイダンス ◎健康診断 ◎進路希望調査	◎学校教育実習Ⅵ ◎幼稚園教育実習				◎発展期セミナー ◎在学生ガイダンス ◎学修ポートフォリオ(LP)作成説明会 ★LP入力	◎教育職員免許状申請手続			◎卒業式 ◎進路状況調査		
				◎大学院出願(Ⅰ期)	◎大学院入試(Ⅰ期)			◎1000時間体験学修時間認定締切り ◎大学院出願(Ⅱ期)				◎大学院入試(Ⅱ期)
				★教員採用試験・就職活動の結果報告								

◎教員採用試験 先輩からのアドバイス◎

- ◆受験する都道府県を早めに決め、出題傾向を分析
- ◆試験問題にはヤマをはらずに、分析結果の範囲をまんべんなく
- ◆二次対策(面接、実技など)も早めに
- ◆提出物は早めに作成、必ずコピー、早めに提出、必ず誰かに読んでもらう
- ◆問題集・参考書はあれこれ手をつけても意味がない、同じものを何回も
- ◆先輩のアドバイス、体験談は何よりも貴重
- ◆自分の試験勉強のリズムを早く見つける(息抜きの時間も必要)
- ◆友達の良いところはどんどん真似して取り入れる(仲間は大切)

未来教師塾

教員採用試験対策

〈教師力パワーアップセミナー〉

- ◎主に面接(集団・個人)、集団討論の練習をします。
- ◎教育学部の教員や学外の教育関係に携わっている方が面接官をしてくださいます。ここでのアドバイスはとても重要です。

〈就職支援室〉

- ◎各都道府県の教員採用試験動向情報を提供
- ◎その他の就職相談

〈その他〉

- ◎願書添削セミナー、マナーアップセミナー等の開催



卒業生の声

卒業を前に大学生活、学習等で思い出に残ったことや、後輩への言葉などを寄せていただきました。

教師になる、そしてこれから

小学校教育専攻 西村 優希



恩師と出会い、島根県で教師になることを志してから10年以上が経ち、いざその夢を実現するために入学した島根大学での4年間はとても恵まれていたのだと思います。私たちの年代は新型コロナウイルスの影響が大きく、入学当初に面食らうこともありました。しかし、そこで生まれた時間を逆手にとり、1回生の頃から学校現場での活動を継続してきたことは、これから教師になる自分にとって大きな財産になっています。

その中で得た多くの経験の根底には、初任の方からベテランの方まで、多くの現職教員の方々とのつながりがあり、その縁に私はとても恵まれていました。教師としての幅広い活動に限らず、現場での経験談や何気ない工夫などからも勉強させていただくことが多く、非常に良くしてくださいました。逆に話を聞いてくださることや別の現場で出会った際に声をかけてくださることもあり、そうしたつながりの先に教師としての温かさがあることを実感しました。大学の方でも、諸先生方や先輩方の力をお借りすることも多々あり、今の私の糧になっています。そして、教師になるという同じ志を持つ同輩とのつながりもまた私にとって大きなものとなっています。

来年度からは島根県の小学校教員として働くこととなり、夢の実現を果たせたものの、それで終わりではありません。これからが本当のスタートであり、より一層教師としての力に磨きをかけていきます。その中で、同僚の先生方や保護者の方々、地域の方々に至るまで、様々な人とのつながりを大切にしていきたいです。あわせて、その先にある教師としての温かさを持ち、これから出会う多くの子どもたちの成長に携わっていきたいです。さらには、諸先生方や先輩方にいただいたことと同じように、今度は私が教師を目指す人たちに微力ながらも力を貸していけるよう、教師として学び続ける姿勢を持ち、自分を高めていきます。

夢に繋がる大学での学び

小学校教育専攻 呑田 潤



入学前から私の将来の夢は小学校教員になることでした。教員という仕事を具体的にイメージできていなかった私ですが、島根大学教育学部での実践的な学びを通して教員という仕事が現実的にイメージできるようになりました。

実践的な学びとして、印象に残っていることは「1000時間体験学修」と教育実習です。「1000時間体験学修」においては、小学校での学習支援に多く参加しました。この活動では、クラスに入って児童たちと一緒に授業を受けたり休憩時間に遊んだりするなど小学校の一日を体験することが出来ました。実際に子どもたちと多くの時間を過ごし、子どもの特性を理解しながら一人一人に合った関わり方を考えられるようになりました。また、先生の授業の仕方や学校内での動き方など教員としての学校の動きを見て学ぶことが出来ました。

教育実習では、「1000時間体験学修」と異なり、実際に授業を行うことや授業づくりを苦労しながら行いました。子どもたちの前で授業を初めて試みて教員の大変さを知ることが出来ました。その一方で授業に積極的に参加してくれる子どもたちの姿や授業後に子どもたちが楽しかったと言ってくれたことでやりがいを感じる事が出来ました。教育実習では大変なことも多くありましたが実際にやってみなければ得られない学びが多くあり、自分を大きく成長させることが出来ると思います。

教育学部での4年間の学びでは、先ほど挙げた実践的な学びだけでなく、授業づくりの理論的な部分も学ぶことができ、実際に教員として働いていく上で必要なことが多く得られたと感じています。

私は、春から広島市で小学校の教員として働きます。多くの悩みや失敗にあたることもあると思いますが、島根大学での学びを活かして一つ一つ乗り越え、子どもたちと共に学んでいくことのできる教員になりたいと思います。

たくさんの素敵な出会い

特別支援教育専攻 中尾 智香



島根大学での4年間を振り返ると、大学の先生方や友達をはじめ、たくさんの人たちと出会ったことで、自分が大きく成長できたと感じています。

島根大学に入学した時は、新型コロナウイルス感染予防対策の時期であったため、様々な制限があり、同回生ともほとんど顔を合わせることがありませんでした。しかし、大学での対面授業や1000時間体験学修が始まってからは、自分が学びたいことや身に付けたいことを応援してくださる先生方、自分が不安に思っていることについて相談に乗ってくれる上回生、同じ目標をもち様々なことを一緒に楽しく乗り越えてくれる同回生のみんな等、たくさんの人との素敵な出会いがありました。また、定期的に基礎領域の活動があり、同回生との横のつながりだけではなく、大学の先生方や異なる回生との縦のつながりも築くことができるころは、島根大学のたくさんある魅力の一つだと思います。さらに、こうした4年間の大学生活での出会いは、教員採用試験対策の期間において、辛くて一人だと不安になる中でも前向きに頑張ろうと思える自分のモチベーションになりました。また、アルバイトでは年齢の異なる人との交流や様々な個性をもつ子どもたちと関わる機会があり、コミュニケーションスキルを高めることができました。このように、特定の人とだけでなく様々な分野の活動環境がある島根大学の強みや大学生としての特権を活かしながら、「とりあえずやってみよう!」という精神で何事にも積極的に行動することを心掛けたことで、たくさんの人と出会い、4年間の大学生活がより豊かになったと思います。

春からは岡山県の小学校教員として働きます。島根大学で出会った人たちに感謝の気持ちを忘れず、これまでの経験や学んだことを活かし、子どもたちが楽しく安心して学校生活を送る環境をつくることのできる教員を目指していきます。

学び続ける教師に

国語科教育専攻 吉岡 彩那



高校生の時、島根大学の先生から「漢文はきれいですか」と問われ、衝撃を受けたことをきっかけにして本学への入学を決意し、実際にその先生のもとで漢文を学びながら、教師になることを目標に大学生活を過ごしてきました。所属している国語科教育専攻では、言葉を尽くして説明すること、論理立てて物事を考えること、他者との対話の中で新たな気づきを得ることを身に付けようと努めました。また、小学校教育副専攻や特別支援学校免許プログラム、社会教育士特別プログラムでは、様々な角度から教育や現場を見つめ、考え、組み立てることを学び、教育実習や各種体験学修では、今、必要とされていることや現実に行き詰っていることに真面向から向き合って企画実行していくことを学びました。そうして理論と実践を往復しながら、実感を伴った学びを積み重ねることができたように思います。私にとっての島根大学教育学部の魅力は、間違いなくそこにありました。

周りには、同じように悩み苦しみながら、目標に向かって努力を重ねる仲間がいます。いつか私もあなりたいと本気で思える、憧れとなるような仲間がいます。ともに全力で遊び、笑い、時に本気で立ち向かってきてくれる仲間がいます。そして厳しくあたかく最後まで指導してくださる尊敬すべき先生方がおられます。そんな環境に身を置き、希望をもって学びを重ねることができた4年間はとても有意義で、まぎれもなく財産となりました。

春からは、鳥取県の高等学校で教員として働きます。目の前の生徒一人一人を大切に、全ての生徒が人生の幸せを叶えることができるように、誰ひとり取り残さない教育を理想にして日々邁進したいと考えています。たくさんの方々からの支えがあってこそ、これまでがあり、今があり、そしてこれからがあるということを忘れることなく、常に学び続けることのできる教員、人間になれるよう、絶えず努力を重ねていきます。

後援会活動の概要

1. 学生教育活動の支援

- ①1000時間体験学修、面接道場、教師力パワーアップ
セミナーなど学生教育活動事業経費への助成
- ②学生の体験活動等の交通費補助(全学年)
- ③学生の学会発表等の交通費補助
- ④貸出用ノートパソコン等の整備



基礎体験活動
(1000時間体験学修)

2. 教育実習の支援

- ①教育実習を充実させるため、実習受入校の実習
経費への助成(学生が実習で使用する文房具や教
材等への助成)



教育実習

3. 就職活動の支援

- ①教員志望学生の援助
教員採用試験に向けての対策と指導に関する
経費への助成
- ②就職支援室の書籍整備等への助成
- ③企業志望学生の支援
就職ガイダンスを開催し、企業就職関連の各種
セミナー等を行なう経費の助成
- ④4年生の就職活動の交通費補助
- ⑤教員採用試験の模擬試験の受験料補助

4. 国際交流活動の支援

- ①テキサス大学、ミシガン大学、ヴァージニア・コモン
ウェルス大学学生との交流活動への助成

5. 教育環境整備の支援

- ①構内の教育環境の改善を図り、学生の生活環境の向上
及び充実のための施設整備経費への助成(トイレ内
整備、玄関の花壇整備など)



正面入口前広場の花や観葉樹

6. 広報事業の実施

後援会事業活動報告及び学部教育・研究活動並びに学生生活の様子等をお知らせするための後援会「機関誌」を発行

7. 課外活動の支援

在学中における各種部活動、大学祭、寮祭、中四国大学学生競技大会参加等の活動費への助成



令和6年度

教育学部後援会役員名簿

地 区	氏 名	在学年	学生氏名
出雲市	内 藤 正 和 (会長)	4年	内 藤 綾 香
安来市	青 木 朱 美	4年	青 木 水 輝
出雲市	岩 崎 ひとみ	4年	岩 崎 萌 香
松江市	柳 浦 礼 子	4年	柳 浦 駿太郎
米子市	山 下 英	3年	山 下 拓 海
出雲市	山 本 薫	3年	山 本 俊 介
松江市	伊 豫 宣 行	3年	伊 豫 瑛 宣
松江市	三 井 卓 也	3年	三 井 日咲子
安来市	秋 月 弘 司	2年	秋 月 菜々子
松江市	高 橋 一 成	2年	高 橋 朋 希
飯南町	本 間 康 浩	2年	本 間 大 介
松江市	松 浦 亮	2年	松 浦 叶 夢
松江市	徳 田 麻 美	1年	徳 田 鈴 菜
松江市	伊 藤 乃梨子	1年	伊 藤 晴 陽
松江市	森 山 裕 文	1年	森 山 創 太

(順不同、敬称略)

学生支援事業のお知らせ

教育学部後援会

2024年度の後援会事業として、以下の補助事業を実施しますので、遠慮なくお申込みください。なお、この事業は、会員学生(保護者が後援会会員である学生)が対象となります。未入会の方には補助できませんので、是非ご入会ください。(中途の入会も可能です。)

全学年・院生対象

- ◆介護等体験、1000 時間体験（基礎体験活動等）、実習セメスターでの学校体験活動、実習等に伴う交通費を補助します。

[5,000円まで]

3・4 年生、院生対象

- ◆教員採用試験模擬試験の受験料を補助します。

[5,000円まで]

- ◆就職活動（教員等採用試験の受験を含む）の交通費を補助します。

[10,000円まで]

全学年・院生対象

- ◆学会発表等の交通費を補助します。

[10,000円まで]

○問合せ・申請先：松江地区学部等事務部総務課（教育学部後援会担当）
（法文学部棟 1 階 112 室）

T E L : 0852-32-6253

E-mail : edu-jimu@office.shimane-u.ac.jp

○発行 島根大学教育学部後援会

E-mail edu-jimu@office.shimane-u.ac.jp

ホームページURL https://www.edu.shimane-u.ac.jp/gakubu_link/link_itiran/link_itiran03.html

○発行日 令和6年11月29日

○発行所 島根大学教育学部後援会事務局

○所在地 〒690-8504 松江市西川津町1060

TEL (0852-32-6253)

FAX (0852-32-6125)

○印刷 明和印刷有限会社